

水稲・畜産・施設野菜など、当町の振興作物の生産を中心とした経営を永続的に維持するため、関係機関と連携し高付加価値化・品質向上やさらなるブランド化に取り組みとともに、前年に被災した農業用施設の改修や、老朽化する農業用施設の修繕等を行いながら、価格競争に耐えられる経営基盤を築くよう支援してまいります。

また、幸連育成牧野の安定的な運営のための支援を行います。

【林業】

森林等の整備に関しては、森林整備対策補助事業などの新しい取組も進めてまいります。

また、道南スギのブランディングを進め、木材を活用した町オリジナル製品の検討を進めるとともに、建て替えが行われる商工会館についても支援します。

【水産業】

サーモン養殖事業を展開し、漁業者の皆さまとともに未来を見据えた政策を進めてまいります。

- ① 漁業者支援や後継者育成
 - ② 海の環境保全改善ブルーカーボン事業
 - ③ 育てる漁業の養殖事業
- 水産業元年の三本の矢をさらに進めてまいります。

【商業】 【工業】

商工業では、人口減や少子高齢化

の影響により厳しい経営が続き、事業所の数が減少している状況を踏まえ、地域経済活性化のために、当町が行う工事や事業は地元企業を優先した発注に努めてまいります。

新たな商品の開発や、さらなる磨き上げに対しても支援してまいります。

【観光】 【広域観光】

アウトドア・アクティビティの調査を行い、新たな観光資源としての可能性を調査します。

新幹線木古内駅活用推進協議会においては、地元の魅力を伝えるトックプセールス事業を展開し、広域観光で連携する道南西部9町の魅力発信に努めます。

【雇用】

未使用公共施設などを効果的に活用し、新たな産業の創出、企業誘致、進出を図ってまいります。

新たな産業の創出や起業について、ゼロカーボンの推進など環境に配慮した取組は優先的に連携し、多方面から実現の可能性を追求します。

令和3年度は旧恵心園を活用するLED水耕栽培の事業者が事業を開始しております。新たに企業進出した事業者が安定して事業を継続できるよう支援してまいります。

また、北海道、漁協と連携したサクラマス養殖実証実験事業は、6月に初水揚げの予定で、二期目の養殖

は11月を予定しております。

民間企業、漁協と連携したサーモン養殖事業に關しましては、11月に港内での実証実験がスタートします。持続可能な水産業への挑戦として10年先を見据え、漁業者、漁協とともに取り組んでまいります。

生活環境・交通

【住環境】

大型の公営住宅の整備が一段落し、生活環境の向上が図られてきておりますが、今後も、公営住宅等長寿命化計画・個別施設計画を基本に、公衆施設の維持管理に努めてまいります。

【人口減少問題対策】

令和3年度より、職員で構成する木古内町「未来へ繋げる」地域力向上プロジェクトチームを立ち上げ、提案された施策のなかから、移住・定住の促進に有効な施策を選定し、令和4年度より、木古内町移住定住新生活しあわせサポート条例を制定し、事業を展開してまいります。

【公共交通網】

北海道新幹線については、木古内駅の利用促進を図り、広域観光を活性化するため、昼前後の停車について継続的に要望し、レンタカーなどの二次交通を維持継続することで、交通拠点としての利便性の向上を目指します。

【道路】

函館江差自動車道木古内インターが供用開始され、木古内町は道南地域の交通の拠点として益々重要な役割を担う町となります。「道南を未来へつなぐハブタウン木古内」としての使命をしっかりと果していくとともに、交通インフラをまちづくりに十分活かせるよう、地域の声を反映させながら交通の利便性の向上を図ってまいります。今後は更なる交通網の発展のため、江差までの事業化、松前半島道路の早期着工が実現するよう関係機関と連携を図り、要望を強化してまいります。

【上・下水道】

簡易水道事業については、人口減少による需要減少を踏まえた施設規模の縮小計画による老朽管更新工事、さらには木古内川河川改修工事に伴い町道瓜谷1線水道管移設工事を行います。

下水道事業については、南本町地区の汚水管渠新設工事を進め、現在進行中である中央通の街路事業と並行し雨水管渠の工事を行います。

【環境美化】

河川、海岸、林地、空き地などへのごみの不法投棄やポイ捨て防止のため、看板の効果的な設置を進めるとともに、団体や地域の清掃活動を支援し、環境美化の取組を進めてまいります。